

## 「令和4年度伊達市ふれあい懇談会（保原地域）」発言録

日 時：令和4年11月16日（水）

18時30分～20時10分

場 所：保原市民センター

市 長：説明「市長あいさつ、伊達市の5つのまちづくりについて」（要旨別紙参照）

### 【質疑応答】

#### 生活環境関連

##### ■交通標識と職員対応について

市 民：9月12日に町内の交差点で交通事故が起きた。町内の人には暗黙の了解で一時停止する箇所であったが、運転手は梁川在住の人で止まらずに出合い頭にぶつかった事故であった。カーブミラーも標識もなかったが、この事故で新たに標識が設置された。しかし、片側だけにしか「止まれ」の看板が設置されなかった。普通、両側から認識できるように両側に配置すべきものであるため、もう片側に設置してもらうよう市役所に相談した際、「予算がないため交通安全協会に相談した方が早い」と言われた。すぐにできないと回答するのではなく、気持ちをこめた対応を職員にはお願いしたい。危険箇所はまだあるため、難しいと思うが、対応できるように予算確保をよろしく願う。

市民生活部長：総合支所に相談に行かれたと思います。通常、看板は市にて用意させていただいて、交通安全協会と協議をしながら設置をしていきます。総合支所では交通安全協会を案内されたとのことですが、できるだけ希望に沿う形で丁寧に対応させていただきたいと思います。場所によっては一定程度の交通量がある等の危険度を踏まえ、標識の設置、停止線を引く等の対応が警察署にてできる場合があります。その場所が警察署にて対応できる箇所かどうか確認させていただいて対応したく思います。

総務部長：職員の対応にて不快な思いをさせてしまい申し訳ありませんでした。窓口対応について丁寧に対応をするよう心がけていますがなかなか与える印象もそれぞれあると思います。今後はそのようなことがないように改めて注意喚起を図っていきたく思います。

##### ■産業廃棄物の不法投棄について

市 民：伊達市は山が多くて自然環境が良いが、山が多いと目が行き届かなくなるため産業廃棄物の不法投棄等に力を入れてほしい。現在、太陽光発電が増えてきており、業者が破綻したソーラーパネルを放置する心配がある。撤去するにしても税金を使用されてしまうことは問題である。

市民生活部長：地域の方に不法投棄監視員を委嘱し、定期的に巡回していただいています。今後は啓発のために広報紙で周知する等、不法投棄が少なくなるような取り組みをしていきたいと思えます。ソーラーパネルは制度上、手続きを踏めば設置できる流れになっています。心配されている破綻したソーラーパネルについては、新しい制度で撤去するための費用も設置業者が持つ仕組みとなっています。情報をいただきながら、働きかけていきます。

## **まちづくり・地域振興関連**

### **■人口減少と移住定住施策について**

市民：市長から「伊達市の5つのまちづくりについて」の説明があったが、市長の任期が終わるまで伊達市の人口がどれくらい増える見込みか考えを聞きたい。

市長：今現在、伊達市の人口は減少傾向にあります。人口を増やしていくことは非常に難しいことです。移住で増えることはあっても、全国的にも人口は減りつつあるからです。そのため、計画により人口減少を少なくすることを進めていきます。工業団地、大型商業施設、住宅団地をつくることで人口が増加する見込みではありますが、どれだけ増えるか想定することはなかなか難しいです。できるだけ現人口を確保し続けられるような施策を考えていきたいと思えます。

市民：確かに全国的に人口は減っている。しかし、県内には人口が増加している市町村もある。市長はそれがどこだか答えていただきたい。

市長：大玉村、西郷村が増加していると認識しています。伊達市においても減少傾向と説明しましたが増加、維持している地域があります。交通の便が良い伊達地域と保原地域です。増加、維持している地域にはさらに増える施策を、他区域についてはそこで生活することが困難にならないように利便性を高め、産業振興を行う施策を行います。地域の特性に合った施策が必要だと思っています。

市民：「人口が減少しているからどうしようもない」と後ろ向きの姿勢ではいけない。質問しているのだから「伊達市の人口を増やします」と明確な意見を出さなければいけない。ほかの町がやっていることをやるのではなく、伊達市としてアイデンティティのあることをしなければいけない。全国的に人口が増えているところは何故増えているのか研究し、伊達市のやり方で落とし込む必要がある。市長が責任をもって、引っ張っていかないと人口減少する一方である。また、行政は縦割りではなく、横のつながりを持ってそれぞれ意見を出し合い、市民の声を聴きつつ伊達市の課題である人口減少に取り組んでいただきたい。

市長：横のつながりとありました通り、行政は一つの部署で完結することはありません。しっかり横のつながりを持ち、伊達市として進めていきたいと思えます。また、人口増加について色々意見をいただきありがとうございます。出生人口は厳しい状況であるため、関係人口である伊達市に興味を持ってもらう層を築き、移住してもらう施策を進めます。出生が自然減少してしまうため、社会増

を図っていくことが課題だと思っていますので、アドバイスいただいたことを基に頑張っていきます。

### ■移住定住（観光）につながる施策について

市 民：7～8月に買い物に出かけた際、私の後ろにいた30代くらいの男性が店員に「この辺りにお風呂、遊ぶ場所はありますか」と聞いていた。店員は「ここの住民ではないのでわかりません」と回答していて悲しい気持ちになった。その際に観光マップがあれば、観光地に足をのぼしてもらえたかもしれない。そういったことから移住定住につながっていくのではないか。

産業部：市長の説明にあった通り、伊達市には観光地がたくさんあります。観光地に来てもらうことをきっかけに、移住定住にもつながると思います。マップについては市でも観光マップを作製しています。公共施設には配布してありますが、商店にまで配布はしていませんでした。意見をいただきながら商工会と協議し、配置場所を前向きに検討していきたいと思っています。

### ■交流人口と定住人口の増加について

市 民：まずは交流人口を増やす姿勢で取り組まなければ定住人口に中々結びつかない。5つのまちづくりに追加で交流人口の増加と大きな題名を入れてほしい。一度伊達市を訪れた人が「伊達市に行ってきたんだよね」と話ができるようなことがあると、いろいろな人に伊達市を知ってもらえるのではないか。

未来政策部長：話にあったように一度で伊達市に移住してもらうということは難しいため、伊達市の良さを知ってもらい体感してもらう施策を行っております。伊達市に来てもらい、生活を体験する取り組みのチラシを配布する等、地道な取り組みを強化していかないと、伊達市に来てもらえないと思います。移住は新たに住宅を構える一大決心になるため、伊達市の良さを本当にわかってもらう取り組みを強化していきたいと思っています。

### ■住民同士の交流を深める施策について

市 民：伊達市に興味を持ってもらうために、町内のお店がなくなりつつあり、保原町のスカイパレスもやめてしまう。外からくる人が増えることは良いことだが、それを受けるための町の施設が持たないのではどうしようもない。行政が住民との交流をもっと深める施策はないか。

未来政策部長：シティプロモーションを進めており、交流人口と地域の担い手を増やそうといった取り組みがある。地域のために自ら何かしようという人を増やしていきたいです。今行っている取り組みと、伊達市は子育てについても放課後児童クラブ等が定額料金で使用できる大きなメリットもありますので、もっと外に打ち出していき、結果的に伊達市に足を運んでもらう人を増やしたく思います。大型商業施設

がきっかけにもなっており、お客さんを上手に市内周遊していただけるようにし、伊達市の施策を知ってもらい、伊達市に興味を持ってもらう流れを作りたいと考えています。現在、試行錯誤中で全国の事例を集め検証していますので、近いうちこういう施策に取り組みたいと発表できるように進めていきたいと思ひます。

市 民：伊達市は災害が少なく、胸を張って売り出せるのは桃だと思ひます。伊達はおいしい桃が取れるという強みを生かしてほしい。

## ■移住に関する支援制度について

市 民：若者の定住が必要と話があったが、若者が伊達市に来てもらえるような施策を考える必要がある。例えば移住した人が、家を建て、ここで子育てをしたいと思ひるように、直接家を建てる資金を補助する制度が他市町村ではあると聞いた。伊達市に来て子を育てる環境ができれば自然と人口は増えると思ひますため、資金的援助に関する施策を考えていただきたい。

未来政策部長：若者定住は大きな課題であるため、工業団地、大型商業施設ができた際に人を呼び込みたいと思ひています。現在、県外から移住し新しく家を建てたいという方、集合住宅を買われる人については諸条件がありますが、助成できる制度があります。また、条件を整えば県からの上乗せもありまして、通常の地域で最大130万円助成いたします。PR不足であるため、更に色んなところへ発信していきたいと思ひます。また、参考になります、伊達市では東京都に移住相談窓口「カラフル」を設置しています。また地域おこし支援員として伊達市にいた方に経験を活かし、移住コンシェルジュとなってサポートさせていただいています。認識不足なところもあるため、広報も活用し施策を進めていきたいと思ひます。

市 民：そのような制度があると初めて知った。その制度を使って、この伊達市に移住した人は何人くらいいるのか。

未来政策部長：令和3年度に、制度を利用し移住した人は20名です。制度を利用した人の主な出身地は宮城県、千葉県、神奈川県です。

市 民：年間何世帯を移住させるか、ある程度目標を設定してどうやって達成するか皆で考える必要がある。

## ■資料のキャッチコピーについて

市 民：資料に「未来躍進～活力と希望あふれる故郷～」とキャッチコピーが載っているが、この名目では伊達市資料を見たいと思ひない。5町が合わさった経緯もあり、なかなか一つのコンセプトを決定するのは難しいのかもしれないが、もう少し伊達市としてのキャッチフレーズがあると良い。若者がHPやYouTubeを見たいと興味を持つものでないといけない。いかにも行政がきれいな言葉を並べただけである。「便利な田舎 伊達市」のほうが興味を持つ人がいる。伊達市はこういう市だと発信できるキャッチーなものを考えていただきたい。

総務部長：市としてもすべてのセクションで伊達市を知ってもらう工夫をしているつもりではあります。しかし、なかなか伝わらないとなると発信の仕方を工夫しなければとも思います。資料にある「幸せがじゅずつなぎになるまち伊達」という標語は行政にて考えたものではありません。市民に広報させていただき、シティプロモーションのテーマを皆さんに考えていただいたものです。行政が色々なことを決めるのではなく、皆さんに知っていただくために伊達なふるさと大使、伊達な宣伝部長といったように自分たちの活動の中で伊達市をいろんな方に広めていただいています。市民が好きな写真を撮ってSNSにて紹介する伊達フォト部といった工夫もしています。発信をするにあたり、発信するだけではだめで何とか見てもらう工夫をしなければいけません。今のご意見も取り入れ進めていきたいと思っています。

### ■任意団体の減少について

市 民：婦人会、敬老会、体育協会がなくなりつつある。任意団体ということでわずかな助成金で運営しているが、絆を深める一つの方法である。役員の担い手がなく終わってしまうため、任意団体が担ってきた地域づくりや地域交流といった役割は誰が担うのか、行政がどのように考えているのか教えていただきたい。

未来政策部長：地域における各種団体の位置づけは、市として重要なポイントと思っています。行政だけではなく、お互いに持ちつ持たれつで、行政が担う部分、民間にお願いするところがあると思います。シティプロモーションでいう本来の担い手づくりが必要だと考えます。仕事が忙しく、高齢になっても働き続ける人が増え、担い手がない現状ではあります。特効薬という解決策はないのですが、地域組織を循環しながらどんな課題があるか昨年から聴取しているので、市としてどういった手助けをするのが良いか考えながら進めていきたいと思っています。アイデアがあれば、どんどん市に教えていただきたく思います。

## 建設・土木関連

### ■街灯の設置のお礼について

市 民：町内に新しく移住された人が近くに街灯がないということで、市に相談したところ、工事は年に1回10月の審査で翌年の2～3月に設置すると回答を得た。しかし、冬場、足元が暗くなって危険になる前に設置いただきたいと相談したところ、早々に設置いただき感謝している。

## その他

### ■退職後の職員について

市 民：市役所職員が現役時に一生懸命仕事をして、退職後に地域と関係ないような対応をする人がいる。退職後も地域に貢献できるような職員を育ててほしい。

総務部長：それぞれの職員が地域を盛り上げていくべきですが、個人の考えもあり、それも尊重していかなければと思います。地域がそれぞれ頑張り、市役所がどう対応していくべきかという話をしてきたため、市役所にて何かできないか考えを進めていきたいと思います。